反省から前進へ

―今年の主婦会活動をふりかえって―

主婦活動はなぜ活発にならないか

今期のはじめ、主婦会活動の重点をどこにおくかを論議したとき問題が集中したのは、内職ムードで沈滞した今日の主婦会活動を、どうして活発にすることができるか。まず活発な諸会議体制をつくりあげるにはどうすればよいか。まずその原因は、夫の斗いを支える目的で内職に取り組まれたのがいつしか保守性の強い内職先での生活にならされ、内職中心の生活のくり返しから社会の矛盾に対する考えの後退となってきているのではなかろうか。また一日の労働のつかれとの斗い、子どもたちへの理解もその故に大切ではなかろうか。と対策を検討したすえ、家族会議の開催によりまず、夫の斗いの意義を家族全部が理解し助けあうこと。その助けあいの気持を地域にひろげ、組織の連帯性を高めるための話題と、その消化のための対策として年間のテーマを家族会議とし、毎月のテーマをそれぞれ設定しました。

テーマをきめて話し合い

たとえば、八月は「子どもを水魔から守ろう」、一月では「物価値上げ反対」「大幅賃上げ」「主婦会づくりは班会議から」、今月は「内職をせず生活できる賃金を」「CO家族との交流を深め実態への理解」ということなど、その時々の問題点を中心に取りあげてきました。またそのテーマの運動への浸透を深めるための検証活動をし、月一回の学習会や、地域交流など会員との接渉を深め、大衆路線の徹底と主婦会活動の位置づけを明らかにするため努力をつづけてきました。もちろんその中心には、会員の運動に対する意欲をどうして盛りあげるかということで、会員の創意性、自発性を引きだすため幹部は大衆に学ぶという姿勢で望むべきであることを確認し、この一年を取りくんでまいりました。はたしてその実績はどうだっただろうか。また班会議、分会会議、学習会とその集り具合その内容の充実の程度を検証して見て自信は持てただろうか。

強引な体制的合理化に備えての地域組織の育成や、また反戦平和の斗いとしての署名活動、原水禁大会、母親大会への取り組み、遺族・CO患者家族の斗いへの理解、敬老会やその他諸行事に結集した組織力を考えて見た場合、主婦会の力量の中心となる活動家がどれだけふえてきたか一年の反省がつぎつぎと湧きあがってまいります。

家庭民主化を基盤に地域組織を強化する

家庭の民主化は社会の民主化の基盤であり、この後も家族会議は継続したいと思います。そして今後は、班会議まで経験、交流できるところまでもりあげていきたいと思います。

体制的合理化はますます強行の動きがすべての面であらわれてきています。こうした情況のなかでとくに組合と主婦会との連帯を深めるための合同会議は、全体としてはまだ成功していません。ぜひこれを続け地域要求を組織していく必要があります。

また主婦会の力量を深めるため活動家を育成強化する意味からも学習会も活発にやるべきだと思います。

以上の要点を中心にして、一年の歩みの成果をより実効のあるようみんなと討議しながら、今後も頑張っていきたいと思います。

詩

抵抗

宮浦鉱　高椋竜生

抵抗とは
自分の生き方に
筋を立てることであり
人間が
人間らしく
生きることである
抵抗という、ことばに
抵抗を感じるのは
長い歴史の中で
罪人のようにして
たたきこまれてきた
封建的思想が
しみこんでいるからである。

（一九六六・四・一二）

ニュース・コーナー

新潟で川魚を食べた子ネコが死んだ。猛毒の有機水銀が原因で、これは農薬を通じて米にもたまっているそうだ。このままでは米を食ったら〝狂い死〟の危険もある。

×

防衛庁は四月五日、第三次防衛力整備計画の原案をまとめた。ミサイル七大隊増強などが中心。総経費二兆七千億円で、兵器は国産化。海外出兵論議もある。いよいよ本物だ。

×

四月一日、南ベトナム人民軍はサイゴン市の米軍宿舎「ビクトリア・ホテル」を爆破し、米軍将校ら二百人を倒す。このため米軍の間に〝ビクビク病〟が発生。

若い芽

港務　松岡つぎの

ことしもまた山の神の桜の花の中から「炭掘る仲間」の歌声が聞えてくる。仕事がえりの花見・団結集会のひとときでしょう。

花見のころを迎えると思い出すことは、六年前のあの激しかった三池斗争を追想し、身のひきしまる思いがします。それから毎日が苦しい生活と人間としてのすべての権利を守るために、家族みんなで話しあいの中から理解しあっての斗いの連続でした。

ことしもまた一月末に、全国各地から「学ぶ会」のオルグのみなさんが三池にきました。二八〇名にちかい多数のみなさんが参加くださったことは、私たちのいまの斗いに対する理解と、なによりの激励であり、心づよさを感じます。

あのときは二人とも若い仲間を家に迎えました。いつもながら初対面とは思えない近親感を覚えます。

二才の青年（京都全逓・八幡化学）で家にも同年令の子どもがいますが、主人はわが子のような迎え方です。ちょうど交流座談会のさなかに久しぶりに長男と次男が帰郷してきました。交流が終って若い世代同志が夜のふけるのも忘れて話していました。

若い寝息を耳にしながら、主人と話したことです。全国の産業に若い活動家が年々増加していること、またわが子が苦しい家計のなかで思うままに欲しがる物を買ってやれず、できる限りの教育をしてきた子どもが「学ぶ会」の友とあれだけ階級的な話を身につけていることを初めて知りうれしくなりました。

「学ぶ会」が回を重ねるごとに、私たちのいまの斗いがあの春の「若い芽」のように全国にひろがっていることが心づよく思い、来年はさらに若い芽が枝になり、新しい芽をふくことを期待して、いまから楽しみにしています。

街見

○…新入学のシーズンです。小さいながらも社会への一歩をふみだした小学一年生の姿には、未来への希望があふれるばかり。「育児過剰」や「教育ママ」人間性を無視した「テスト教育」でゆがめないで、のびのびと豊かに育つようにねがわずにはいられません。

二五〇年前に貝原益軒は幼児教育について①いとけなき時より、はやくおしゆべし②小児をそだつるに初生（うまれた時）から愛を過ごすべからず③「人品よき師」を求めて、「まじわる所の友をえらぶ」をたいせつにする。つまり母親が幼児を家庭にとじこめて教えこむのでなく、はやくよい集団のなかに入れて、集団教育をおこない、社会人として、他人とのつきあいのルールを身につけること、よい先生、よい友に接することの大事さをといています。

○…子供が小学校にはいったとき注意したいのは、親がやたらに緊張しすぎないことです。「学校ではりっぱにするのですよ」とか「教室ではよそみをしてはいけませんよ」、家へ帰ってくれば「きょうは何を習ったの、もう一度やってみましょう」などと注意をしすぎると、子供の心構えが不自然になればかり、なれない集団生活の緊張も加わって「神経衰弱」状態にまでなります。子供の目のかがやきがにぶっていないか、ほほの色はどうかなどに気をつかうようにしましょう。

集団生活に慣れさせよう

小学　一年生をもつ親へ

○…とかく教育熱心?な親は、子供が文字をいくつ覚えたか、数をいくつ覚えたかばかりを気にしたり、テストの点数で競争心をあおりたてたりしがちです。小学校の低学年では集団生活や社会活動を正しく行なえるようにすることが第一で、先生や友だちとはきはき話しあっているかどうか、集団遊戯をしりごみしたり、休み時間にすみで小さくなっている子供はいないかなどに気をくばりましょう。子供同士がお互いに友だちになり、自主的にリーダーをつくり自主的にまとまるように指導すれば、生き生きとして勉強にも活動にも積極的になります。子供を人間として扱い、意見をよく聞き、子供の気持ちになって考えてあげることです。小学一、二年の学科のおくれを取り戻すことはかんたんですが、集団生活や社会活動での異常児は、そのままにしておくと青年期になっても性格のゆがみとなって残ります。

短歌

ああ山田米吉氏

三川内運　木村守

二十六屯電気けん引車にかまれける命は坑道に転げて小さし
こん睾生憎し憎しと叩きけむかまるる三両目まで三両の血こん
顔割れていまわのきわの時君は何を思いむ何叫びけむ
懲らさるる差別作業をしていつつむごき死態を見るわが前
説得をことわりしから懲らさるるなど言いおりて殺りくされき
生と死のさかいの刻の数秒に五十一才君は何まとめけむ
撥ね出され果ての作業に殺さるるとはあまりにも大きく過ぎき
風呂浴みて入坑すると聞くからに魂は死を予知しておりき
先妻の子供は憎しと口利きて懲らし殺しきこの係長が

ちちとはは

宮浦鉱　高椋竜生

マッチの棒をならべ
給料を勘定していた
ちち
きげんのよいとき
ながうたの
石童丸をうなっていた
はは
貧そのしわにくい入る
日に焼けた
顔と顔をつきあわせ
ためいきついていた
ちちと　はは
だった。

「抵抗日記」(7)

顔

港務　柿坂　敏

鏡を見ていた私が、突然茶目気を出し、食事をしている妻や娘にむかって、「おい、父ちゃんな良か男と思うかい」と、真面目くさって問いかけた。娘たちは「フフン」と鼻先で笑って、ノーコメント。妻は日ごろの口重さにも似ず「いま、あんたが鏡と相談しとる最中じゃろもん」とワサビのきいた皮肉を浴せた。これで、わが家の私の顔に対する評価がいともかんたんにくだされたのである。

むろん、われとても男前に自信など持つかさ気などさらさらないどころか、この顔には青春時代には相当悩まされ、親を逆恨みしたものだ。洗濯バサミで一晩中鼻に隆鼻術をほどこした涙ぐましい思い出。人にかくれて三川売店で買った安っぽい計りクリームの香りが、片想いに終った私の初恋の思い出でもある。そんな私がこの齢になって鏡をつくづくながめているのには、一つの大きな理由があるのだ。それは先日読んだある作家の随筆に、「人間の顔は三十才までは親からもらった造形だが、三十過ぎから自己の責任による顔ができあがる」という、この考えにあまりにも的確なる実証にでっかしたからだ。

昨日大牟田署通りで、第二組合の某幹部に三年ぶりにひょっこり出あって驚いた。あまりにも変り果てた彼の顔、それは顔というより肉塊だ。ギラギラした油ぎった顔、豚のように水ぶくれした、完全に人格喪失の、西部劇に出てくる悪漢そのままの顔である。高価な背広を着た肉塊が歩く歩く。私は虫づが走しり舗道にペッペッと唾をはいた。

あんな顔にくらぶれば、鏡にむかっている私の顔は仏さまとはいかなくとも、未完成の芸術品ぐらいの価値はあろう。私は気楽になり、ニヤリと笑い、赤い鏡掛けを名画のラストシーンみたいに、おごそかにおろした。

家庭

トウフを煮るには

おトウフを煮るとき、うっかりすると、こわれてしまいます。料理する前に、塩をひとつまみほど入れた水に二〇分ほどつけておいて使うと、くずれにくくなります。また煮るときにも、さっとゆでてから使うと、味がよくしみておいしく食べることができます。

ご飯をふかすとき

ふかしご飯特有のにおいがいやだというときは、ふかしナベのお湯のなかに塩をひとつかみ入れて、ふかしてみてください。不思議に、臭気が気にならず、たきたてのご飯同様になるようです。